

4月2日(月) ■美術館 ■氏、■ほか
午後2時

安永顧問
西島

■美術館は、台北市から北へ車で1時間半の所に位置する。沿岸部だが、小高い丘に約10haの敷地を持ち、作品は、約8割が屋外に展示されている。近くには、テレサテンの墓や海水浴場があり、台北市近郊の観光地となっている。

○受賞関係行事について説明し、渡航の日程(9月12日出発 16日 or 17日帰国)を確認。
■氏が海外渡航を好まないと言ったため、心配になったが、結局は提示したスケジュールについて同意を得た。来福は、同氏および夫人、美術館スタッフ数名。

○市民フォーラムはアジ美で行い、それに合わせて作品の展示会を行えないかと安永顧問が提案すると、9月なので、展示にはスポンサーを早急に探す必要がある。また、フォーラムは同時通訳でやりたいとの返事があった。

○学校訪問については、■氏もこれまで子供達とのトークをやったが、うまくいかなかったため、スタッフがまず説明し、質問を■氏が受けるというやり方でどうかとの申し出があった。

それに対し、訪問先は小学校ばかりでなく中学や高校もあること、また、学校訪問は、受賞者と生徒との交流を行うものであり、やはり受賞者が中心になって欲しい旨を伝えた。■側でやれそうな案をまず考え、それをもとに協議することになった。

○途中から■氏を推薦した■が同席。

記者発表は、文化賞委員会と■美術館が共催で行う。時期については、■氏がアメリカから帰国する7月29日以降とする。また、記者への呼びかけは、■美術館が通常、記者発表をするときに連絡している記者に対して行う。(日系プレスに対しては、福岡側が行う。) などを確認した。

また、記者発表の場所について、■氏から、文化イベントをよくやる誠品書店はどうかと提案があったが、そこは前日、見に行ったが視聴覚ホールの近くには、レセプションの場所がない、エキジビションホールは、会場費だけで30万円以上かかり予算的に難しい旨を伝えた。

○確認事項

名前	日本語の表記を ■ として欲しい。
生年月日	1938年1月20日
職業、専門分野	彫刻家、彫刻
経歴、作品リスト	確認して連絡する。
賞金受領方法	口座番号を確認
写真	CDで受取